



2023年7月14日

各 位

会 社 名 a n d f a c t o r y 株式会社  
 代 表 者 名 代表取締役社長 青木 倫治  
 (コード番号：7035 東証プライム)  
 問 合 せ 先 取 締 役 蓮 見 朋 樹  
 TEL. 03-6712-7646

プライム市場の上場維持基準への適合に向けた計画に基づく進捗状況(変更)  
及びスタンダード市場への選択申請及び適合状況について

当社は2021年12月1日に「新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書」を公表し、その後2022年11月25日には「上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況」を、2023年3月27日には「上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況及び計画の更新」を公表し、プライム市場の上場維持基準への適合に向けた取組を進めてまいりました。

2023年4月1日施行の株式会社東京証券取引所(以下、東証)の規則改正に伴い、スタンダード市場への上場の再選択の機会が得られたことから、本日開催の取締役会においてスタンダード市場へ選択申請をすることを決議するとともに、申請いたしました。なお、スタンダード市場の選択理由及びスタンダード市場への上場維持基準の適合状況については、下記のとおりです。

## 記

## 1. 当社のプライム市場の上場維持基準への適合状況の推移及び計画期間

当社の2023年7月14日時点におけるプライム市場の上場維持基準への適合状況について、その推移を含め下表のとおりとなっております、「流通株式時価総額」及び「1日平均売買代金」について基準を充たしておりません。

		株主数	流通株式数	流通株式時価総額	流通株式比率	1日平均売買代金
当社の適合状況及びその推移※	2021年6月30日時点 (移行基準日時点)	4,015人	47,447単位	33.4億円	48.2%	0.67億円
	2022年8月31日時点	3,718人	48,300単位	19.9億円	49.0%	—
	2022年12月31日時点	—	—	—	—	0.17億円
上場維持基準		800人	20,000単位	100億円	35.0%	0.20億円
計画書に記載の計画期間		—	—	2024年8月期	—	2024年8月期
適合状況		○	○	×	○	×

※ 当社の適合状況は、東証が各基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等を基に算出を行ったものです。なお、2022年12月31日時点の1日平均売買代金は、2023年1月11日に東証より受領した通知を基に記載しております。

## 2. プライム市場の上場維持基準適合に向けた取組の実施状況及び評価

### ・取組の実施

2021年12月1日発表の「新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書」にて記載した「第一次中期経営計画の遂行」、「今後のIR方針並びに目指す株主構成」の取組状況は以下のとおりです。

#### (1) 第一次中期経営計画の遂行

当社は2021年8月に第一次中期経営計画を策定しており、2023年8月期は計画期間の2年目となります。第一次中期経営計画においては、既存事業の成長及び新規事業の創出を主な目標として掲げ推進してまいりました。

既存事業の成長については、マンガ事業において、メディア化作品のヒットや積極的なキャンペーンの実施が奏功し、新規ユーザーの増加と継続率の上昇によってMAUは高水準を維持しております。2023年5月末時点の四半期平均MAUは1,140万人となり、中期経営計画の目標である2024年8月末時点でMAU:1,300万人という目標は概ね達成できる水準で推移しております。また、課金率の高いアプリが好調に推移したことにより、課金売上が上昇傾向にある一方で、広告ARPUの低下により広告売上は減少傾向となりました。エンタメ事業については、注力領域である「古い事業」において積極的に広告宣伝費を投下した結果、ARPUが高水準で推移し売上高は2023年8月期第3四半期累計期間において前年から約1.4倍のペースで成長しております。「古い事業」が成長フェーズにあることから、当面の間は売上拡大に注力する方針であり、積極的な広告宣伝費の投下を継続するため利益面での成長は中期経営計画目標の水準と比較してやや鈍化する見込みであります。RET事業については、&AND HOSTELの運営に加え新規事業の推進による売上拡大と利益創出を目標としており、新規事業であるSUMUTORE及び&RESIDENCEについて2022年4月よりサービスを開始いたしました。収益性の観点から2023年8月末をもって終了することと判断いたしました。今後は、&AND HOSTELの店舗運営の継続と、保有物件の販売活動に注力してまいります。保有物件の販売活動については、直近のインバウンド需要の回復を鑑み休業中の店舗の営業を再開する予定であり、運営実績の積み上げにより売却の早期化を促進していく方針です。

新規事業の創出については、マンガ事業において株式会社ロイヤリティマーケティングと協業し、オリジナルマンガ書店の構築に向けて現在開発を推し進めている最中であります。その他には、AIを活用した横読みマンガの縦スクロール化・Webtoon化についての研究開発の開始や、マンガ領域における新規事業の創出に積極的に取り組んでおりますが、当面の間は新規事業の確立に向けた人員の強化等の投資が必要であり、売上及び営業利益目標の達成には時間がかかる見通しであります。

#### (2) 今後のIR方針並びに目指す株主構成

株価及び売買代金の向上に向けては、「第一次中期経営計画」における計数目標の達成を前提としつつ、今後の当社事業の成長性を資本市場に訴求することを通じたPERの向上及び取引の活性化が肝要となります。そのため、当社では今まで以上にIR活動に重点を置き、資本市場とのコミュニケーションの拡充に努めてまいりました。

具体的には、第2四半期決算のプレゼンテーション資料より、マンガ事業におけるARPUを実数で開示し、実施した施策についてもより詳細に記載するよう開示範囲を拡大いたしました。決算短信の英訳は決算発表と同時に開示するよう早期化を図りました。また、PR情報の発信も積極的に行うことで、取材材料の提供による活性化を促進し事業の成長にも寄与いたしました。

### ・取組に対する評価

上記取組を実施しましたが、直近基準日時点での「流通株式時価総額」及び「1日平均売買代金」はプライム市場の上場維持基準を充たしておりません。

### 3. スタンダード市場の選択理由

このような状況のもと、当社は2023年4月1日施行の東証の規則改正に伴い、スタンダード市場への再選択の機会が得られたことから、今後の方針について直近のプライム市場の上場維持基準への適合状況を踏まえて慎重に検討を重ねてまいりました。

その結果、プライム市場で求められている流通株式比率に捉われることなく、時価総額の引き上げに注力していくことが最も重要であり、継続的に株価を上昇させるため安定的な収益構造を確立することに注力すべきと判断いたしました。短期的にプライム市場の上場維持基準を充足しない状況となった場合には、上場廃止となるリスクがあります。そういった状況に陥った場合の取引機会の喪失を避けるためにも、スタンダード市場を選択することといたしました。

### 4. スタンダード市場の上場維持基準への適合状況

直近基準日である2022年8月末時点のスタンダード市場の上場維持基準への適合状況は下表のとおりであり、すべての項目において適合しております。当社は、スタンダード市場への上場の選択申請時点で、同市場全ての上場維持基準に適合している状況であることから、今後上場維持基準の各項目の判定基準日時点において、同市場の上場維持基準のいずれかに適合しない状況とならない限り、「(スタンダード市場の) 上場維持基準への適合に向けた計画」の開示の必要はありません。

		株主数	流通株式数	流通株式 時価総額	流通株式 比率	月平均 売買高	純資産 の額
当社の 適合状況	2022年8月31日時点	3,718人	48,300単位	19.9億円	49.0%	11,941単位 ※	5.4億円
スタンダード市場 上場維持基準		400人	2,000単位	10億円	25.0%	10単位	純資産の 額が正
適合状況		○	○	○	○	○	○

※ 2022年7月～12月における東証の売買立会での売買高を月次平均にして当社が試算を行ったものであります。

### 5. スタンダード市場への移行予定日

スタンダード市場への移行予定日は、2023年10月20日となります。この日以降において、当社株式の取引はスタンダード市場に移行し、同市場で取引が継続されます。

以 上